



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和6年10月17日(木)

実践！オンサイト製炭

～春の黒松剪定枝を炭にしました～ 編

のしろ白神ネットワーク(以下, NW)では, 廃棄物として費用をかけて燃やしてしまっているものを有効利用し, 温暖化対策に活用できないか? を考えるきっかけにしたいと, 一昨年(令和4年)から米代川の伐採支障木の製炭と活用に取り組んでいます(令和4年10月31日の活動レポート参照)。今回は国道7号沿道の黒松の剪定枝葉(令和6年5月26日の活動レポート参照)の製炭と活用に取り組みました。

強風で1週間延期となったこの日は, 風なく穏やかな秋晴れで, 絶好の炭焼き日和。能代バイパス黒松友の会から2名の会員の方がご参加下さり, 剪定枝が入った土のう袋200個を, ステンレス製簡易製炭器を使って炭にしました。

13時半から製炭器の組み立てを始め, 種火を作って作業を開始。乾燥した剪定枝葉は割りに早く炭になっていきますが, 200袋は相当な作業量でした。それでも16時半には消火, 終了し, 土のう18袋分の炭ができました。

10月22日(火)には, 能代河川国道事務所のお二人の成田さんに頑張っていただき, 黒松ハウス北側に防草効果観察用の試験地をつくりました。木高研の栗本先生の計算によれば, 今回の製炭で136kgの二酸化炭素を固定, 黒松ハウス前に隔離したことになります。次週開催の秋の剪定会で生じた剪定枝葉は来春まで乾燥させ, また製炭することになっています。

文：渡辺 千明



春の剪定会でNWの松から生じた徒長枝(上)。5ヶ月間自然乾燥した中には太さ20cmほどの枝も混じていました(中, 下)。



2台の製炭器を使い完全に燃えてしまわないように気をつけながら, 剪定枝を投入していきます(上)。全袋を投入し, 燃焼を見届けたら水をかけて消火します。全体を混ぜながら冷ましたら終了です(下)。



よく見ると松葉や徒長枝, 枝が形そのままに炭になっていることがわかります。



長さ3m, 奥行き90cm, 深さ20cmの試験地には17袋の黒松炭を撒きました。雑草の侵入と炭の飛散防止のため, 10cmほど高くして周囲を畦シートで囲みました。